

平成23年度 入学試験問題
(第1次)

国 語

[50 分]

[注 意 事 項]

1. 指示があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。
2. 解答は、すべて別の解答用紙に記入して下さい。

世 田 谷 学 園 中 学 校

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

① 葉っぱをかき分けて団地の庭に入ってみると、辺りはすごく湿^{しめ}っぽかった。きつと、庭先でトマトや何かを育てている人が、夕方になったのもう一度水をまいたんだろう。地面も濡^ぬれて、土が真っ黒な色に変わっていた。途中^{とちゅう}のベランダからは、中でテレビを観^みている音が聞こえてきたから、ぼくは見つからないように⑦ ヒクい姿勢になり、足音をたてずに

A 進んでいった。

一番端^{はし}にあるベランダの下をのぞいてみた。するとそこには、いつものようにオトトイがすみっこのほうで B していた。きのうあげたキウイは、もうすでになくなっていて。いつもは一日に半分しか食べないはずなんだけど、今日のオトトイはすごくおなが空^すいていたんだろう。

ぼくはベランダの下に入る前に、すぐ目の前の木から、固いキウイを一個もぎとった。ベランダの中に入ってから、ぼくはそれをオトトイの前に置いてみる。やっぱりウンともスンとも言わないので、キウイをオトトイの上に乗せてみた。それでもオトトイは、何も言わなかった。

ぼくはあぐらをかいて、自分のひざの上にオトトイを乗せた。背中をさすってみると、いつものように毛は汚^{きた}れて固く、身体^{からだ}も② きのうみたいにプヨプヨしていなかった。オトトイの背中をさすりながら、ぼくはコウジのことを考えた。オトトイの背中をなでた。コウジのことを考えた。オトトイの背中をなでた。

そのうち、ぼくの目の端から涙^{なみだ}が一本だけ流れて、ほつぺたを伝ってゆっくりと落ちていった。 C 涙が出るんじゃないかと思ったけど、町を自転車ですつと走っているうちに、だんだん悲しい気持ちは薄^{うす}くなってしまったんだろう。これだけしか涙が出ないんだったら、家のトイレの中でもじゅうぶんだったかもしれない。 D 今流したぼくの涙も、そん

なに悲しくないから、あまりすっぱくはないだろう。 たった一粒^{ひとつぶ}の涙は、ぼくのお腹のところまで、しばらくじっとしていた。放^{はな}っておくと下に落ちるかなと思ってそのままにしておいたら、そのうち、涙はぽつんと雨のように落ちていった。

そして、涙はオトトイの背中にかかった。すると急に、オトトイが動いたような気がした。③ いつのまにか背中をなでていた手を休めていたので、ぼくはまたオトトイの上に手を置いてみる。すると、さっきまでしっかりしていた背中が、ムニムニユになっている。プヨプヨと波を打つように動いて、柔^{やわ}らかくなっていた。ぼくの④ シンゾウは、ゴキブリを見つけてしまったときのようにドキドキと高鳴っていた。本当は気持ち悪いから投げ捨ててやりたかったけど、かわいそうだから、じつとオトトイをひざの上に乘せたままがまんしていた。

しばらくしてから、オトトイはまた元^{もと}に戻^{もど}った。さっきまでムニムニユしていた背中は、いつもの固さになったし、背中也波打^{なみ}ったりしていない。あいかわらず、どっちが背中かどっちがおなかかわからない、サツマイモみたいなオトトイの姿だった。ただ、さっきよりまた少し大きくなったような気がする。気のせい？ そのとき、ぼくはきのう考えていたことを急に思い出した。オトトイがミカの涙を食べて大きくなっていくという、ぼくの勝手な空想を思い出してしまった。もしかすると、それって本当のことなのかもしれない。オトトイは④ すっぱい涙を食べると、本当に大きくなれるのかもしれない。い。

そう考えたぼくは、もつと涙をかけてやりたくなって、オトトイの背中に目を近づけてやったんだけど、もう涙は出なかった。仕方がないから、まばたきをぜったいにしないよう、じつとがまんして目を開いたままにしてみる。⑤ イタいのをがまんしてじつと耐^たえていたら、そのうち目に涙がたまってきた。やがてそれは、ほつぺたを伝って下に落ちていった。そしてさつきと同じように、涙はオトトイの背中の上に、ぽつんと一粒だけ落ちた。

すると一瞬^{いつしん}、オトトイの背中がブルツと震えた^{ふる}。だけど、すぐ元に戻ってしまった。ムニムニにはなったけど、波打ったりはしなかった。

どうしてなんだろう？　ぼくは考えた。考えに考えてみると、これはやっぱり、にせものの涙だからだ。さつきは悲しくて流した本物の涙だったし、今のは、まばたきをしないで作ったにせものの涙だ。すっぱさがちがう。何とか、今すぐに涙を出す方法はないだろうか考えたぼくは、ここで悲しいことをいくつも思い出してみることにした。

飼っていたクロデメキンが死んでしまったときのこと。飼っていたセキセイインコが逃げ^にてしまったときのこと。一月分のおこづかいを、どこかに落としてしまったときのこと。ぼくの忘れ物が多過ぎるからという理由で、先生に正座させられたこと。それが、母さんのせいだと言われたこと……。ちよつと考えただけでも、こんなに悲しいことが出てきた。それなのに、涙はやっぱり出てこなかった。というより、本当はもう悲しくなんてないのかもしれない。そのときは悲しくて悲しくて、もう死んでしまおうか、それがダメなら石にでもなってしまうかと思っただけなのに、今はどれだけ考えても、涙が出てこない。

⑤ けれどどこか、おかしくなってきた。クロデメキンが死んだのは、ぼくが水槽^{すいそう}の中にお湯を入れたせいだった(寒くてかわいそうだったのだ)。セキセイインコが逃げたついでというのだって、もし⑪ ギヤクの立場ならぼくだってそうしてるはずだった。おこづかいはなくしてしまっただけ、その代わりミカに百円もらった。忘れ物については、もうどうだっていい。こうして考えてみると、悲しいどころか、けっこう楽しいことでもあった。もしそうじゃないとしても、とにかく涙が出るほどの悲しいことではない。どうしてぼくは、あのときそんなに悲しんだんだろう。自分でも⑫ フシギに思えた。ちよつと時間がたつてみると、ぜんぜん悲しいことじゃないんだ。悲しいことも、時間がたつてしまうと味がなくなってしまうんだ。だれか、ぜんぜん知らない人に起きた、悲しい話のような気がしてしまう。

今度から、何か悲しいことがあったときは、このことを思い出すようにしよう。ぼくは⑬ そんなことを思った。でも、そのせいで、もう⑭ 実験^{じけん}ができなくなってしまった。

⑮ オトトイ……ミカが見つけた謎^めの生き物。

(伊藤たかみ『ミカー』による)

問一 ― 線①～④の片仮名を漢字に直しなさい。

問二 本文中の A D に入る語句として最も適当なものを、それぞれ次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア きつと イ もつと ウ じつと エ やつと オ そつと

問三 ― 線「たった一粒の涙は、ぼくのあごのところで、しばらくじつとしていた」とありますが、同じ表現技法が用いられているものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 頭上の月が、私に優しくほほえんでいる。
イ 彼女の声は、鳥のさえずりのように美しい。
ウ 兄のサッカーへの情熱は、真夏の太陽だ。
エ 東には海が開け、西には山が見える。
オ 本当だったのか、彼の話していたことは。

問四——線①「葉っぱをかき分けて団地の庭に入ってみる」とありますが、「ぼく」は何のためにこの場所に来たと考えられますか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア オトトイにきのうあげたキウイがどのくらい減っているかを確認して、エサのキウイを補おうと思ったため。
イ コウジが言うように本当にオトトイが涙を食べて大きくなるのか、自分自身の目で確かめたいと思ったため。
ウ 団地に住んでいる人に見つからないように育てているキウイの成長ぶりを、一人で楽しみたいと思ったため。
エ ブヨブヨになったオトトイとふれ合って、ミカとの悲しいできごとをすべて忘れてしまいたいと思ったため。
オ コウジとの間でおこった悲しいことについて、人気のない場所で涙を流して気持ちを晴らそうと思ったため。

問五——線②「きのうみたいにブヨブヨしていなかった」とありますが、オトトイがきのうブヨブヨになった原因を「ぼく」は具体的に何だと考えていますか。本文中より四字でぬき出して記しなさい。

問六——線③「いつのまにか背中をなでていた手を休めていた」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 悲しい気持ちになっていて、自分の置かれた状況に不安を感じていたから。
イ 悲しい気持ちになっていて、自分の涙のあまりのすっぱさに驚かされたから。
ウ 悲しい気持ちになっていたはずが、食べたキウイのすっぱさで我に返ったから。
エ 悲しい気持ちになっていたはずが、自分の涙のことに夢中になっていたから。
オ 悲しい気持ちになっていたところ、オトトイがめずらしく甘えてきたから。

問七——線④「すっぱい涙」とありますが、それを分かりやすく言い換えている部分を本文中より十一字でぬき出して記しなさい。

問八——線⑤「それどころか、おかしくなってきた」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 過去に悲しいと思っていたことは、時間がたつて考えてみると楽しいことでもあったから。
イ 過去に悲しいと思っていたことは、自分で悲しいと思いこもうとしたことばかりだったから。
ウ 悲しい思い出というのは、過去も現在も未来も変わらずに悲しいものだとなったから。
エ 悲しい思い出というのは、自分の今後を左右するような重大なことばかりだと気づいたから。
オ 悲しい思い出というのは、考えてみると自分を成長させる機会になった楽しいことだったから。

問九——線⑥「そんなこと」とありますが、それはどのようなことですか。本文中の語句を用いて八十字以内で記しなさい。

問十——線⑦「実験」とありますが、それはどのような実験ですか。四十字以内で記しなさい。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ながいあいだ、いつもひどく^⑦キョウミをさそわれつづけたものに、TVのいわゆる怪獣^{かいじゅう}モノがありました。たいていのものをほとんど毎回欠かさずみていたんじゃないかとおもう。おもしろかったからです。おもしろかったというのは、それが今日のわたしたちにとって怪獣とは何かということをきわめて的確に語りかけてくる、ほとんど唯一^{ゆいいつ}のTVのプログラムだったからでした。

ウルトラマンや仮面ライダーに代表される超人^{ちやうじん}たちが、わたしたちに代わって対決したのは、「地球の平和」を脅^{おびや}かす「敵」でした。しかし、超人たちがどのようにがんばっても、怪獣はけっしてほろびることがないですね。倒^{たお}しても倒しても、怪獣は次から次へでてくる。闘^{たたか}っても闘っても、超人たちは、^①個々の怪獣に勝つことはできても、総体としての怪獣をほろぼすことができないんです。ただ疲労^{ひろう}を手にするだけ。ウルトラマンだっていくども交代したし、仮面ライダーもなんどか交代しています。そうして結局、超人たちは次々と疲労して去っていったんだけど、怪獣だけは倦^うむことなく、手を変え、品を変えてのこったのでした。

TVの怪獣シリーズは、これらのけっして^①やぶれない怪獣の意味を、みるものに深く考えさせるものでした。けっしてやぶれることがないので、これからも手を変え品を変え、怪獣たちはわたしたちのまえに登場してくるだろうとおもう。怪獣たちは、しばしば個々に変わった名をもっていますが、つまるところはただ一つの名をしか^②タイゲンしません。

A、怪獣たちというのは、どんなときもたった一つ、「敵」という名だけをもつ怪獣なんです。怪獣については、それが「敵」だということとは、まるでわからないんですね。正体はいつだってついに不明です。

たとえ誰^{だれ}かが「敵」の正体をみたといい、「敵」の本名はこうだと発^はこうと、誰も実際にはそうした言葉を信じません。怪

獣「敵」はあくまでも正体不明であることによつてはじめて、「敵」としての^④カチをもち、不安な存在たりうることを、誰もがかく信じているからです。はっきりいえるのは、怪獣「敵」はわたしたちではないということ、ただそれだけなんです。

怪獣「敵」がどこにいるか、誰にもわからない。超人たちにもわからない。だが、やつは「敵」だと誰かがささやけば、

^②怪獣「敵」はたちまちにしてそこに出現します。「敵」がどんな姿をしているか、誰にもわからないのだけれども、やつは

「敵」だと誰かが指させば、怪獣「敵」はたちまちにしてそこに出現するのです。

そうして出現した怪獣を、わたしたちは^③超人の力にたよつて追いつめるんですが、B 怪獣をどんなに追いつめて倒したとしても、「敵」がそれでもなおどこかにみえないままに存在しているという不安感から、わたしたちはけっして自由になれないんだ。というのも、怪獣「敵」は、あくまでもわたしたち自身のみえない「敵」にたいする不安感によつて、不断につくりだされる怪獣にほかならないからなんです。

怪獣「敵」をじぶんからつくりだしては、「敵」をほろぼすために、わたしたちはさらに強力な破壊^{はかいりき}力をもつミサイルや戦闘機^{せんとうき}をつくりだします。C、ほろぼされればほろぼされるだけ、わたしたちの疑心暗鬼^{ぎしんあんき}によつてつくられる「敵」はいっそう強力によりみがえりつづけるんです。そうした恐怖^{きょうふ}の亢進^{かうしん}を、TVの怪獣モノは、感傷もなく戯画^{ぎが}化^かして、みるもののまえにしめすものだったのです。のちに怪獣モノのあとを引きついだ格好^{かくこう}の宇宙戦争^{そふせんそう}モノもまた、^④怪獣「敵」なしには成り立たないということでは、まったくおなじ物語の構図をもつもので、やはり原型は怪獣モノにあります。

そういった物語の構図に明かされるのは、わたしたちはそれほどにも怪獣「敵」を必要としている、という心的な事実であり、そして、わたしたちではない「敵」をつくりださなければ、わたしたちがわたしたちである明証はどこにもない、という^⑤ムザンな事実です。わたしたちは今日、じぶんたちがどんな存在か、じぶんたちがまもるべきものが何かを、もはや

「敵」という概念なしにはわからなくなってしまうていて、怪獣「敵」への不安、恐怖によってしか、わたしたちがわたしたちであるという実感を、どうにも維持できなくなってしまうていうことを、怪獣モノほど明確に語りつづけたものはほかになかった。

怪獣「敵」は、D、どこにもいるんです。わたしたちのいるところなら、どこにでもいる。^⑤ただわたしたちのあいだに、それは隠されているだけなのです。とすれば、わたしたちは、どんな隣人をも「敵」かもしれぬと疑うことから始めるほかはないんです。実際、怪獣モノの怪獣たちは、いつでもまず人間として、あるいは人間のようにわたしたちのあいだにあらわれるのです。

(……中略……)

わたしたちがみずから「敵」を必要としているかぎり、どんな超人もけっして怪獣「敵」を倒すことができないというのが、TVの怪獣モノがそれをみつづけた一人にくれたおくりものでした。^⑥それは苦いおくりものだった。英雄を必要とする時代は不幸な時代だと、かつて詩人のブレヒトは喝破したけれども、「敵」を必要とする時代は、Xとよばれていいかもしれない。怪獣モノの人気はいまもけっしてわすれられてはいず、思い出にのこるTVのプログラムがふりかえって懐かしまれるようなとき、真っ先にあげられるのは、きまって怪獣モノ。それだけ隠された不安が、わたしたちの時代を去っていないというべきなのかもしれません。Eわたしたちは、じぶん自身が、人間であるが人間でない怪獣「敵」であるということにやっと気づいて、わらうしかできないのでわらいながら、その実は脅えている、といったところなのかもしれません。

(長田弘「敵」という名の怪獣——一部改変——による)

⑨ 倦む……あきていやになること。

発く……隠れていることを探りだして、人々に知らせること。

亢進……気持ちなどが高ぶり進むこと。

戯画化……おもしろおかしく描きだすこと。

喝破……真実をすどく指摘すること。

問一——線⑦⑧の片仮名を漢字に直しなさい。

問二 A E にはどのような言葉を入れたらよいですか。最も適当なものを次のア～カの中からそれぞれ一つ

ずつ選び、記号で答えなさい。

ア あるいは イ すなわち ウ たしかに エ だから オ けれども カ たとえ

問三——線①「個々の怪獣に勝つことはできても、総体としての怪獣をほろぼすことができない」とありますが、ここにおける「個々の怪獣」と「総体としての怪獣」の関係と同じものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア レンズとカメラ イ アイス・コーヒーと飲み物 ウ 日本とアメリカ

エ 時計と時間 オ は虫類と両生類

問四——線②「怪獣『敵』はたちまちにしてそこに出現します」とありますが、その原因は何ですか。本文中から十字でぬき出して答えなさい。

問五——線③「超人の力」とありますが、これとほぼ同じような役割を担っているものを、本文中から八字でぬき出して答えなさい。

問六——線④「怪獣『敵』なしには成り立たないということでは、まったくおなじ物語の構図をもつ」とありますが、それはどのような「構図」ですか。六十字以内で説明しなさい。

問七——線⑤「ただわたしたちのあいだに、それは隠されているだけなのです」とありますが、それはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア「敵」があらわれてはじめて、「わたしたち」のあいだの信頼関係が明らかになるということ。
イ「敵」は外からやってきて、「わたしたち」のなかにたくみにまぎれこんでいるということ。
ウ「敵」への不安はつねに意識されているわけではなく、思いがけないときに現れるということ。
エ「敵」を認識することは、「わたしたち」の能力を越えているので不可能であるということ。
オ「敵」は外部に存在するのではなく、「わたしたち」の関係の中から生みだされるということ。

問八——線⑥「それは苦いおくりものだった」とありますが、なぜ「苦い」といえるのですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア「怪獣モノ」がひとつの転機となって、ついに探し求めていた真理をつかむことができたから。
イ「怪獣モノ」をみつづけることによって、「敵」というものがよけいにわからなくなったから。
ウ「怪獣モノ」にふれることによって、気づきなくなかった事実をつきつけられてしまったから。
エ「怪獣モノ」についてこれまで考えつづけてきたのは、単なる時間と労力のむだであったから。
オ「怪獣モノ」をみつづけることによって、かえって恐怖と人間不信を増強させてしまったから。

問九——線⑦「X」にはどのような言葉を入れたらよいですか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 喜劇の時代 イ 感傷の時代 ウ 懐古の時代 エ 不安の時代 オ 否定の時代

問十 筆者は「敵」と「わたしたち」の関係をどのように考えていますか。本文をふまえて六十字以内で説明しなさい。

